

主要底魚類の資源評価に関する研究

(資源評価調査)

寺門弘悦・吉田太輔・金元保之

1. 研究目的

本県の主要な漁獲対象種のうち、底魚類 12 魚種の資源状況を漁獲統計調査、市場調査により把握し、科学的評価を行うとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。また、本調査から得られた主要底魚類の漁獲動向については、令和元年度の漁況として別章に報告した。

2. 研究方法

主要底魚類 12 魚種（ズワイガニ、ベニズワイガニ、ニギス、ヒラメ、マダイ、ハタハタ、タチウオ、カワハギ類、トラフグ、キダイ、ヤリイカ、アカムツ）について漁獲統計資料の収集を行い、マダイ・ヒラメについては産地市場における漁獲物の体長測定を実施した（アカムツは平成 29 年度から資源状態を把握するための資源動向調査に参画）。また、ズワイガニについては調査船島根丸によるトロール調査を実施した。これらの調査結果をもとに（国研）水産研究・教育機構および関係各府県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い、ABC（生物学的許容漁獲量）の推定を行った。

3. 研究結果

(1) 漁場別漁獲状況調査

小型底びき網漁業については、40 漁労体の漁獲成績報告書の収集、整理を行い、FRESCO システムによりデータの登録を行った。また、ずわいがに漁業ならびにべにずわいがに漁業については、漁獲成績報告書の整理を行い、データベース化を行った。

(2) 生物情報収集調査

主要底魚類 12 魚種については、漁獲統計資料の収集、整理を行い、（国研）水産研究・教育機構に情報提供した。加えてアカムツについては、漁獲状況から資源状態を推察した。また、和江市場において、マダイは 2 回、ヒラメは 4 回の市場調査を実施し漁獲物の体長組成と放流魚の混獲状況の把握を行った。さらに、（国研）水産研究・教育機構日本海区水産研究所、西海区水産研究所

が中心となって開催される各ブロック資源評価会議に参加し、資源量、資源水準等の推定ならびに管理方策の提言を行った。

また、（国研）水産研究・教育機構日本海区水産研究所が開催するズワイガニ研究協議会に参加し、情報収集を行った。

4. 研究成果

本研究で得られた調査結果は各県の調査結果と併せて資源評価の基礎資料となり、解析結果は水産庁の「令和元年度我が国周辺の漁業資源評価」として公開された。また、本研究で得られた結果より推定された ABC をもとに、ズワイガニの TAC（漁獲可能量）が設定された。アカムツの調査結果は、他の参画府県の結果と併せて「令和元（2019）年度資源評価調査報告書」として公開された。マダイ、ヒラメについては、市場調査で得られた体長組成データが資源評価に使用されると共に、放流魚の混獲率が放流効果調査資料として利用された。

また、漁海況速報トビウオ通信（令和元年第 5 号、令和 2 年第 1 号）において、底びき網漁業の動向および主要底魚類の資源動向に関して情報提供を行った。